

平成 21 年 6 月 19 日

平成 21 年度第 1 回海岸工学委員会議事録

開催日時：平成 21 年 6 月 19 日（金）14:00～16:20

開催場所：土木学会 AB 会議室

出席者：水口相談役，磯部前委員長，灘岡新委員長，
佐藤前幹事長，後藤新幹事長，
青木，荒木，池谷，伊藤，有働，大山，岡安，小野（信）（黒木委員の代理），木村，小林，高吉，武若，丹治，津田，畑田，間瀬，松本，三嶋，水谷，陸田，森，八木，山田，横木の各委員，
栗山，黒岩，榊山，佐々木，重松，柴山，諏訪，高木，高橋，森屋，山本，由比，渡部，柿沼の各委員兼幹事

委員紹介

前委員長指名委員（有働，大山及び三嶋の 3 委員）が発表された後，出席委員全員が，簡単に自己紹介を行なった。

前回議事録の確認

前回の平成 20 年度第 2 回海岸工学委員会（平成 20 年 11 月 12 日開催）の議事録案（資料 1）が確認・了承された。

審議・報告事項

1. 土木学会論文集の再編（磯部前委員長，佐藤前幹事長）

論文集分野再編案の概要がスライド（資料 2）に基づき説明された。本再編は，2011 年 1 月のシステム始動を目指して進められている。本委員会が担当する B2 部門の論文集は，毎年 4 回発行され，このうちの 1 回において，海岸工学講演会で発表される論文が special issue として編集される。論文集再編の概要は，本委員会で承認された後，平成 21 年 11 月に開催される海岸工学講演会でアナウンスされる。

Special issue の取り扱いに関して幾つかの質問が出された。これらに対して，regular issue は，投稿を随時受け付け，年間 4,000 円の購読料で全部門の論文が閲覧できるが，他方，special issue は，投稿に締め切りが設けられ，発行後 1 年間は，土木学会図書館データ・ベース上で，別料金で閲覧可能とすること，また，special issue も regular issue と共に通し頁が振られることといった現状案が示された。

J-Stage の有効活用法及び各種機能がスライド（資料 2）に基づき簡単に紹介された。

2. 海岸工学論文集第 56 巻の応募論文審査（青木論文集編集小委員会小委員長）
標記審査の現況に関してスライド（資料 2）に基づき報告された。論文投稿・採択状況は、表 1 の通りである。

表 1 海岸工学論文集第 56 巻の論文投稿・採択状況（単位：編）

投稿論文数	381
第 1 段審査通過論文数	300
17 点以上の論文数	285
16 点の通過論文数	15
第 2 段審査採択論文数	298（仮数）
辞退論文数	2
D 判定論文数	0

査読者毎の平均点数が約 3.60 点であり、昨年度は、3.74 点であった。この平均点数の目標値や査読者への指示方法に関しては、今後も議論が必要である。

また、論文情報の記載方法が J-Stage 用に変更されたことが報告され、原稿提出時に J-Stage に登録される英文概要等の情報は、校正時に修正できないことが強調された。J-Stage の特徴の一つは、文献の相互参照であるが、このためには、参考文献に関する情報を正確に記述しておく必要がある。

3. 平成 21・22 年度海岸工学委員会委員長選挙

委任者ならびに代理出席者を含む出席委員数が、委員定数の 2/3 の定足数に達していることを確認後、「土木学会海岸工学委員会委員長選挙細則」（資料 2）に則り、標記選挙が実施された。選挙の前に、柴山委員から立候補の表明および、投票前に候補者による見解表明が必要である旨の意見の開陳があった。また、投票の匿名性を確保するよう意見が出された。選挙権及び被選挙権を共に有しない磯部前委員長及び水口相談役が開票の任にあたった。選挙結果は、表 2 に示す通りである。

表 2 平成 21・22 年度海岸工学委員会委員長選挙の開票結果

投 票	選 出 者
予備投票	灘岡委員，間瀬委員
第 2 回投票	灘岡委員

本選挙の結果、第 2 回投票による選出者である灘岡委員が平成 21・22 年度本委員会委員長として推薦されることが決まった。

選挙の後、磯部前委員長が挨拶・退席された。

灘岡新委員長が挨拶され、後藤新幹事長の指名が行なわれて、休憩となった。

4. 各小委員会委員長の指名・相談役の推挙（灘岡新委員長）

司会が、佐藤前幹事長より後藤新幹事長に代わった。

各小委員会の新小委員長が、灘岡新委員長により、表3のように指名された。

表3 海岸工学委員会小委員会小委員長

小委員会	前小委員長	新小委員長
論文集編集小委員会	青木委員	青木委員
CEJ編集小委員会	柴山委員	水谷委員
広報小委員会	武若委員	武若委員
沿岸域研究連携推進小委員会	重松委員兼幹事	重松委員兼幹事
津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会	今村委員	今村委員
数値波動水槽小委員会	後藤委員兼幹事	岡安委員
地球温暖化適応策検討小委員会	横木委員	横木委員

また、相談役に、喜岡元委員長を推挙することが提案され、了承された。

5. 他委員会への派遣委員の交代（後藤新幹事長）

他委員会に派遣される委員が、表4のように交代することが報告された。

表4 他委員会への派遣委員

他委員会	旧派遣委員	新派遣委員
環境システム委員会	重松委員兼幹事	調整中
地球環境委員会	横木委員	伊藤委員
水工学委員会	日比野旧委員	榊山委員兼幹事
出版委員会	木村旧幹事	調整中
論文賞選考委員会	栗山委員兼幹事	佐藤前幹事長

6. 第56回海岸工学講演会開催準備の現況報告（横木担当委員）

2009年11月18日～20日に開催予定の標記講演会の準備状況及び見学会案等がスライド（資料2）に基づき報告された。

懇親会の開始時刻を11月19日18:30とすることが提案され、承認された。

「津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会」と「地球温暖化適応策検討小委員会」によって11月17日に開催が予定されている二つの前日シンポジウムの開催時間が、見学会の予定時間と重なることが指摘された。これに関して、

二つのシンポジウムを平行で実施し、見学会と重ならないようにするといった案が出された。前日シンポジウムの開催時間に関しては、各小委員長と共に更に議論して決定する必要がある。

7. 第 57 回海岸工学講演会開催準備の現況報告（森担当委員）

標記準備のための実行委員が示され、会場案（京都テルサ）等がスライド（資料 2）に基づき説明された。開催期間は、平成 22 年 11 月 10 日（水）～12 日（金）の予定である。

また、第 58 回海岸工学講演会の開催地は、平成 22 年度海洋開発シンポジウムの開催予定地が愛媛県であることや、これまでの海岸工学講演会の開催地を考慮し、北海道・東北地区とすることが提案された。

8. Coastal Engineering Journal (CEJ) の発行・投稿・購読状況（柴山 CEJ 編集小委員会前小委員長）

CEJ の Vol. 50, No. 4 と、Vol. 51, No. 1 及び 2 の contents 案がスライド（資料 2）に基づき示された。

2008 CEJ Award の対象論文が、下記論文に決まったことが報告された。本論文は、JAMSTEC 中西賞候補として申請される。

Harada, E. and Gotoh, H. (2008): Computational mechanics of vertical sorting of sediment in sheetflow regime by 3D granular material model, Coastal Eng. J., Vol. 50, pp. 19-45.

2009 年 5 月末現在で、CEJ 購読者総数が 136 であり、このうち、日本の購読者数は、50 に過ぎない。日本の購読者数を獲得していく必要性のあることが指摘された。

ここ数年、CEJ に年間 40 編程度の投稿があり、このうち、20～25 編が登載されていることが示された。

同前小委員長より、20 年間にわたり、CEJ 編集小委員会の委員を務め、4 年間は小委員会副委員長、最後の 4 年は小委員長（Editor in Chief）を務めたことに関して、惜別が述べられた。また、一つ一つの投稿論文を大切に査読することを申し送り事項として提示した。

9. 研究小委員会の活動状況

沿岸域研究連携推進小委員会、広報小委員会、数値波動水槽小委員会及び地球温暖化適応策検討小委員会の活動状況が、各研究小委員会の前小委員長により、スライド（資料 2）に基づき報告された。

このうち、数値波動水槽小委員会の活動状況報告では、平成 21 年度「重点研究課題（研究助成金）」に申請した結果、不採択となったことが報告されたが、今後、各研究小委員会がこうした研究助成に積極的に申請していくことが再確認された。

また、地球温暖化適応策検討小委委員会の活動状況報告では、資料3に基づき報告書の目次案が示された。本報告書の内容に関して意見等のある委員・幹事は、横木前委員長に連絡する。

10. 第45回（2009年）水工学に関する夏期研修会（高橋委員）

標記研修会のプログラム案等がスライド（資料2）に基づき示された。本研修会は、2009年8月5日（水）～6日（木）に、日本大学工学部（福島県）で開催される。

また、「第46回（2010年）水工学に関する夏期研修会」のテーマや基本設計に関する議論を早々に開始するべきであるという意見が出された。

11. 国際会議の開催案内（佐藤前幹事長）

表5に示す、本委員会が関与する各国際会議に関して、スライド（資料2）に基づき準備状況の報告及び開催の案内がなされた。

表5 国際会議の開催予定

国際会議	開催期間	開催場所
Coastal Dynamics 2009	2009年9月7日～11日	Tokyo
APAC 2009	2009年10月13日～16日	Singapore
Coasts, Marine Structures and Breakwaters 2009	2009年9月16日～18日	Edinburgh
Coastal Structures 2011	2011年	Japan

12. 今後の研究小委員会活動（灘岡新委員長）

「津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会」ならびに「地球温暖化適応策検討小委員会」の活動は、1年以内に区切りを迎える。その後の小委員会の展開に関しては、委員からの自発的な活動計画の提案を歓迎する。

— . — . — . — . — . — . — . — . — .

資料1 平成20年度第2回海岸工学委員会議事録

資料2 PowerPointのスライド

資料3 海岸工学委員会適応策小委員会報告書（目次案）

作成：柿沼